

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21659128

研究課題名（和文）スキルラボ教育を活性化させる非常勤医師再教育プログラム開発

研究課題名（英文）The Development of Retraining Course for Instructors on Clinical Skills (RICS) that Activate Clinical Education at Skills Lab Center

研究代表者

伴 信太郎 (Nobutaro Ban)

名古屋大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：40218673

研究成果の概要（和文）：

本研究は医学部スキルラボでの基本的臨床技能教育を通じた非常勤スタッフの再教育コースの構築・及び平行して行われる基本的臨床技能実習で確かに医学生がその能力を身につけることを検証するという目標を設定して実施した医学教育研究である。研究成果としては、①「基本的臨床技能教育スタッフ再教育コース」のニーズ調査により、医学生の視点も取り入れることがコースの洗練に重要であることが明らかとなったこと、②それを受けて、学生の視点からみた『よき教育スタッフ像』についてフォーカスグループを実施し、その結果、教育スキル獲得コースのエッセンスを抽出・同定したこと、③そして様々な臨床教育に応用できるような、非常勤スタッフ向けの再教育コースプロトタイプを構築すること、以上3点が達成された。今後はこのようなプロトタイプの経験事例を重ねていく必要がある。

研究成果の概要（英文）：

This study was aimed at developing a retraining course for clinical teachers to teach clinical skills and exploring its effectiveness of the clinical skills training for medical students taught by the retrained clinical teachers. The researchers conducted the need survey of retraining course indicating the essential teaching skills required for clinical teachers. The prototype of the course for retraining clinical teachers was successfully developed. Further study should be a case series study to evaluate the effectiveness of the prototype of the program.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,800,000	0	1,800,000
2010年度	800,000	0	800,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,200,000	180,000	3,380,000

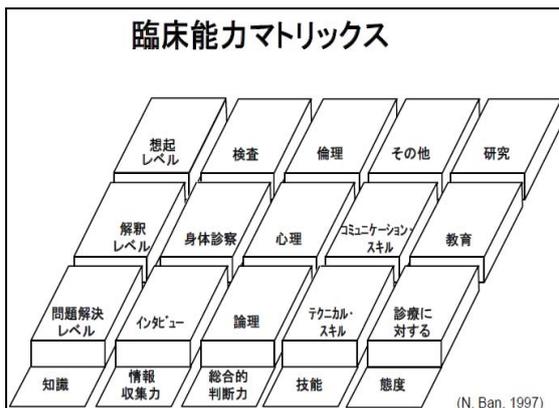
研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：医学・薬学教育、スキルラボ

1. 研究開始当初の背景

よき臨床医を育成するため、卒前教育での基本的臨床技能教育が重要なことに疑いの余地はない。医師が持つべき基本的臨床技能に関して、研究者らは「臨床能力マトリックス」というモデルでその全体像をまとめ、教育の重要性を主張してきた。



このマトリックスには、伝統的に重要視されてきた知識のみならず、コミュニケーションも含めた医療面接技能、身体診察技能も含まれる。技能教育に関する研究者らの 2005 年度全国調査によれば、回答した全国 76 大学医学部中、51 校もの医学部が、世界水準のスキルスラボ（技能教育用の設備を整えた施設）を設立していた。事実、海外の医学教育先進校では、スキルスラボでの実習は臨床技能獲得に有用であることが実証され、スキルスラボでの技能実習の機運は高まる一方である。しかし、スキルスラボで技能実習を指導する教育スタッフの人材不足、かつそれが医学生の実習成果に多大な影響を及ぼしている可能性を、本研究者は海外の研究者と明らかにした。日本では慢性的医師不足が叫ばれ、医師は多忙を極めているが、一方で、我々は産後に現場復帰を望んだりする医者や、基本的臨床技能を学びなおそうとする診療勤務の医師などのような、様々な医師の再教育成功事例を着実に重ねてきた。

2. 研究の目的

本研究では、医学部スキルスラボでの基本的臨床技能教育において、非常勤教育スタッフが教育参画した場合、医学生が基本的臨床技能を着実に獲得できることを実証する事に趣意としている。また非常勤教育スタッフ育成のためパッケージ化された「基本的臨床技能教育スタッフ再教育コース（Retraining Course for Instructors on Clinical Skills (RICS)）」が、確かな基本的臨床技能と教育スキルを有する医師を育成し、非常勤教育スタッフ自身のキャリアパス発展にも資することを証明することを目的としていた。

3. 研究の方法

大きく研究計画を年次別に記述する。

計画概要

年次 (平成)	内容
21	ニーズ調査
22	RICS パッケージ化
23	RICS トライアル (公募・実践・評価)

●平成 21 年度：予備調査（ニーズ調査）

我々の従来の方法について、市中病院、診療所、産業医、大学の医師を対象とした半構造化面接によるニーズ調査を実施する。

●平成 22 年度：RICS パッケージ化

RICS 構築のため、我々がすでに実践している 1) 基本的臨床技能講習会、5 年間の実績がある 2) 教育スキル獲得シリーズ、3) 名古屋大学スキルスラボで実施している基本的臨床技能実習、及び 4) 自己学習支援体制を改善し、パッケージ化する。

●平成 23 年度：RICS トライアル

第一段階：参加者公募を実施する。

第二段階：スキルスラボ専任指導医による RICS を開催する。

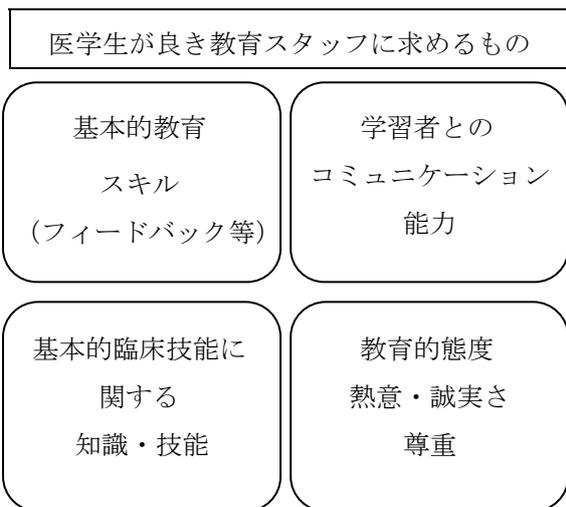
第三段階：RICS で養成された仮認定教育スタッフが、実際に、総合診療部外来診療やスキルスラボでの卒前教育を担当する。

第四段階：包括的 360° 評価方法により、教育スタッフの評価を行う。

第五段階：第一段階から、第四段階までのプロセスで得られた情報を土台に、RICS によりもたらされたアウトカムへの評価も含めて、RICS に対する総合評価を行う。

4. 研究成果

ニーズ調査：模擬患者を用いて行われる医療面接・身体診察実習に参加し、かつスキルスラボを使用した医学生を対象に、学生の視点からの「よき教育スタッフ像」についてもフォーカスグループを実施し、よき教育スタッフ像を把握した。



結果、上述の如く、取得すべき教育能力の4つの領域を厳選することができた。これは基本的臨床能力と相通じるものがあると言え、患者の診療と教育とは類似点があることが示唆されている。このように学生の意見を基盤にコア能力をまとめることで、当初予定されていた教育スキル獲得コースは、5時間から3時間に短縮され実施しやすいコースとなった。

また研究関連図書からプログラムに有用な

情報を抽出し、さらには学会で情報収集を行い、研究協力者らとRICSに関して議論しパッケージ化させることが出来た。

RICSプロトタイプ

STEP	学習内容	時間 (h)
1	実習現場見学	0.5
2	基本的臨床技能の再確認 (ビデオ視聴)	1
3	教育スキル獲得コース	3
4	教育シミュレーション SP (模擬患者) と医学生が参加する環境で、教育実践を経験する。	0.5
4	現場での教育 (セッション 1 回/時間に 4 回参加する)	4
5	学生からのフィードバック・スタッフ間での振り返り	1

RICS検証：プロトタイプとなるRICSはパッケージ化されたものの、年間数名を受け入れていた実績のある当院でもこの数年は公募にもかかわらず再教育希望者が獲得できなかった。もしくは希望者はいたものの、研修期間が短かったため、十分な期間RICSを受けて、医学生の実習に参加することが出来ず、結果、トライアルの教育効果に関して実証するには至らなかった。

・今後の発展性：少数ではあるが、再教育を希望する様々な医師がいることは先行知見が明らかにしている。今後は、RICSプロトタイプの経験事例を積み重ねる必要がある。そしてプログラムの妥当性や実現可能性を検証していく研究という発展性が見出された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

① 西城卓也、伴信太郎、内科指導医に役立つ教育理論. 日本内科学会雑誌. 第100巻. 1987-93. 2011. (査読無)

② Keiko Abe, Debra Roter, Lori H Erby, Nobutaro Ban. A nationwide survey of standardized patients: Who they are, what they do, and how they experience their work. Patient Education and Counseling. 2011. 84. 261-264. (査読有)

③ Takuya Saiki, Kei Mukohara, Takashi Otani, Nobutaro Ban. Can Japanese students embrace learner-centered methods for teaching medical interviewing skills? Focus groups. Medical Teacher. 2011. 33. e69-e74. (査読有)

④ 西城卓也、伴信太郎：教えることで学ぶ□ベッドサイドティーチングのこつ. 日医雑誌. 139(6). 1251-1255. 2010. (査読無)

⑤ Keiko Abe, Tomio Suzuki, Kazuhiko Fujisaki, Nobutaro Ban. A National Survey to Explore the Willingness of Japanese Standardized Patients to Participate in Teaching Physical Examination Skills to Undergraduate Medical students. Teaching and Learning in Medicine. 2009. 27. 240-247. (査読有)

⑥ Jan-Joost Rethans, Nobutaro Ban, Yasuyuki Suzuki. Future use of skills laboratories at Medical Schools in Japan: how to transform these into effective educational departments?. Medical Education (Japan). 2009. 40. 341-346. (査読有)

〔学会発表〕(計2件)

① T Saiki, T Matsumoto, N Ban. How do medical students prepare as teachers?. 欧州医学教育学会 2010. 2010年9月6日 グラスゴー.

② 西城卓也、鈴木富雄、佐藤寿一、伴信太郎. 初診外来患者が外来実習を促進させる要因の検討. 第42回日本医学教育学会大会. 2010年7月30日 東京.

〔図書〕(計2件)

① 西城卓也、高村昭輝、平川仁尚、吉村学著. 地域医療を活性化させる臨床教育：新しい医学教育の流れ'10夏－第37回医学教育セミナーとワークショップの記録－, 名古屋：三恵社；2011年：229－249

② 西城卓也、田口智博著. 研修医との効果的な面談：新しい医学教育の流れ'10秋－第38

回医学教育セミナーとワークショップの記録－, 名古屋：三恵社；2010年：103－126.

〔産業財産権〕
○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伴 信太郎 (BAN NOBUTARO)

名古屋大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号：40218673

(2) 研究分担者

植村 和正 (KAZUMASA UEMURA)

名古屋大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号：40303630

西城 卓也 (SAIKI TAKUYA)

岐阜大学・医学部・助教
研究者番号：90508897

(3) 連携研究者

なし